

日本医療機能評価機構

2015

7

月号

NEWS LETTER

特集

EBM普及推進事業 新しいモバイルサービス 『Mindsモバイル』の開発と提供

病院をたずねて

活動報告

Topics & Information



EBM普及推進事業 新しいモバイルサービス 『Mindsモバイル』の開発と提供

EBM医療情報部 客員研究員
佐藤 康仁

1. はじめに

EBM普及推進事業（Minds）は、2002年より事業を開始しており、2015年には14年目に入りました。2011年からの5年間は厚生労働省委託事業として事業を進めています。Mindsでは、診療ガイドラインによって診療の質の向上を実現する4つのステップ、①診療ガイドライン作成の支援、②公開された診療ガイドラインの評価選定・普及、③診療ガイドラインの活用促進、そして、④活用成果の評価を柱として示し、事業を展開しています。Mindsサイトにおける診療ガイドライン情報の提供は、②評価選定・普及および③活用促進にあたります。

2004年から開始したMindsサイトを通じての情報提供は、PCを用いてのインターネット接続と、情報検索・情報閲覧を想定して実施してきました。一方で近年、スマートフォンやタブレットなどのモバイル端末の普及が大きく進んでおり、モバイル端末を用いてのWebサイトの閲覧が増加しています。Mindsサイトは前述のとおりPC向けに開発したため、モバイル端末では閲覧しにくい状況がありました。そこで、Mindsサイトについて、モバイル機器を用いた閲覧に対応するための新しいサービス『Mindsモバイル』の開発を実施しましたので概要をご報告いたします。

2. 想定する利用者と利用状況

システムの開発にあたっては、ターゲットとする利用者や利用場所を決める必要があります。今回の開発では、主な利用者として医師を中心とした医療者、主な利用の場所として医療現場での利用を想定して開発を行いました。対応するオペレーティングシステムとデバイスは、iOS7以降、または、Android4以降のタブレットとしました。医師を中心とする医療者が、タブレットを携帯して、医療現場でMindsを活用することを想定しています。なお、スマートフォンでも文字やボタンはやや小さく表示されますが、Mindsモバイルを活用することが可能になっています。

3. システムの概要

Mindsモバイルは、Mindsサイトに掲載されたガイドラインについて、検索および閲覧ができるアプリになります（図1）。検索単位としては、ガイドラインの検索、複数のガイドラインを横断したクリニカルクエスチョン（CQ）の検索が可能です。また、『お気に入り（利用者がお気に入りとして登録したコンテンツ）』機能を用意して、頻繁に閲覧したいコンテンツを登録できるようにしました。検索方法は、タイトル検索、関連ワード検索、全文検索、タグ名検索の4つが準備されています。タイトル検索は、ガイドラインやCQのタイトル部分を対象に行う検索です。関連ワード検索は、システム内に登録されたシソーラス（類語辞書）を用いて行う検索です。全文検索は登録されているコンテンツの全文を対象に行う検索です。タグ名検索は、お気に入りを登録する際に付けるタグを対象に行う検索です。

検索後は、ガイドラインのリスト、またはCQのリストが表示されます。ガイドラインのリストが表示された場合は、ガイドラインを選択することでCQのリストが表示されます（図2）。このリストよりCQを選択すると、CQサマリの閲覧ができるようになっています（図3）。CQサマリは、疾患・テーマ名、CQ/目次項目、推奨/回答、推奨の強さ、エビデンスの強さ、解説より構成されています。CQサマリは、医療の現場で診療ガイドラインを活用するために開発したものです。ガイドライン本文にて、確認を行いたい場合は、ガイドラインタブを選択します。ガイドラインタブを選択すると、当該ガイドライン内の目次が表示されます（図4）。この画面よりガイドライン本文を閲覧することになります。

繰り返し利用するコンテンツは、お気に入りに登録すると、迅速に閲覧できて、より利便性高く活用することができます。コンテンツを呼び出す際は、お気に入りリストから選択するだけでコンテンツを閲覧することができます。またお気に入りコンテンツはアプリ内に保存されるため、オフラインでも閲覧が可能になっています。

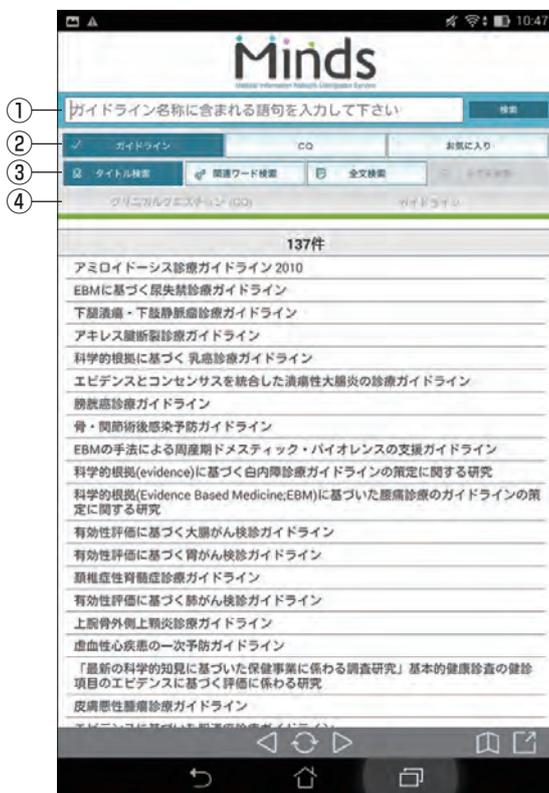


図1 Mindsモバイル初期画面

- ①検索ボックス：キーワードを入れて検索の実施
 - ②検索対象ボタン：ガイドライン、CQ、お気に入り
 - ③検索方法ボタン：タイトル検索、関連ワード検索、全文検索、タグ名検索
 - ④表示内容タブ：クリニカルクエスチョン、ガイドライン
- 画面中央：検索結果およびコンテンツの表示領域
初期画面では全ガイドラインがリスト表示される

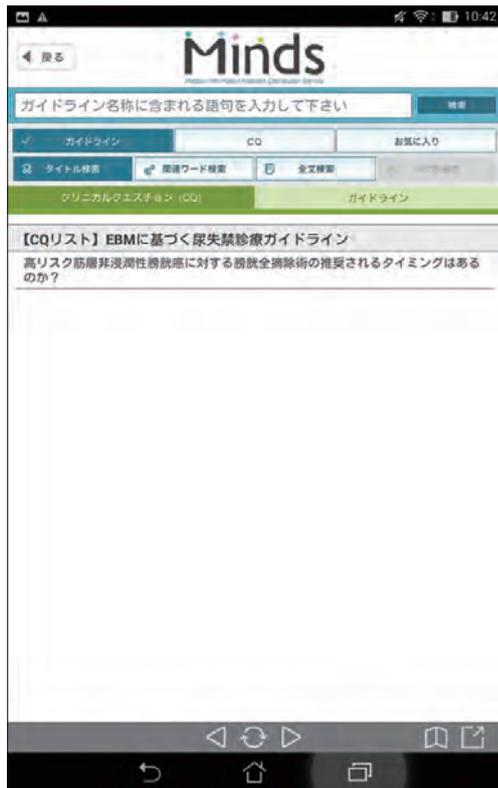


図2 クリニカルクエスチョンのリスト画面

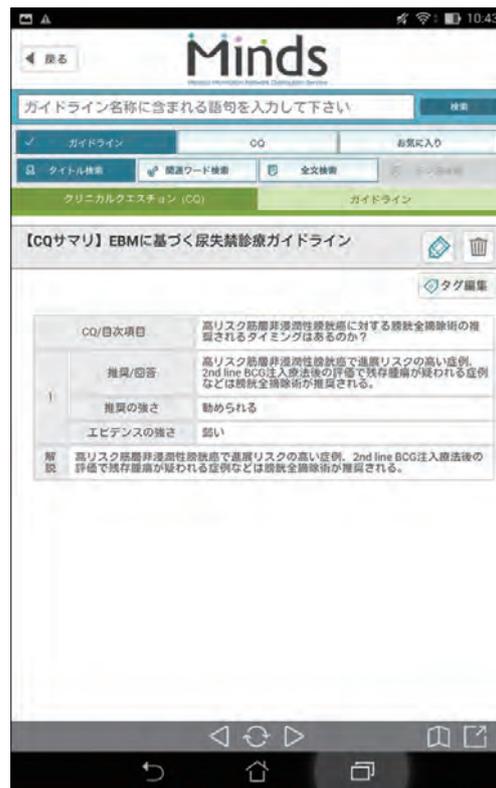


図3 CQサマリ画面

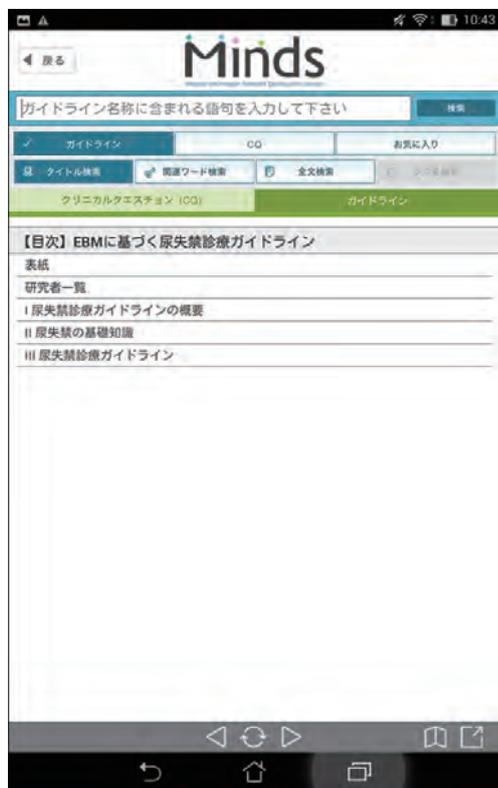


図4 ガイドラインの目次画面

図2 クリニカルクエスチョンのリスト画面
(ガイドライン選択後表示)

テストデータによる表示のため、クリニカルクエスチョンは1つのみになっている。実際には多くのガイドラインで数十のクリニカルクエスチョンがリストされることになる。

図3 CQサマリ画面
(クリニカルクエスチョンの選択後表示)

CQサマリは、CQ/目次項目、推奨/回答、推奨の強さ、エビデンスの強さ、解説より構成されている。

図4 ガイドラインの目次画面
(ガイドラインタブの選択後表示)

ガイドラインタブを選択することで、Mindsサイト内のガイドライン情報を閲覧することができる。

4. 利用までの流れ

Mindsモバイルを利用するためには、タブレット、スマートフォンなどのモバイル端末をインターネットに接続し、iOSの場合はApp Store、Androidの場合はGoogle Playより本アプリをダウンロードしてインストールしてください。インストール後に表示されるアイコンを選択することでアプリを起動することができます。起動後画面は図1のようになります。この画面より検索と閲覧を行うこととなります。利用における画面遷移は、図1から図4となります。

5. Mindsモバイルの準備状況

Mindsモバイルは、システムの開発が完了し、現在、データ登録を実施しています。7月上旬にリリースの予定です。Mindsウェブサイト（PC版）で利用登録をしてくださっている利用者には、サービス開始時にメールでご案内を差し上げます。サービス開始のお知らせをご希望の場合は、利用者登録を是非お願いいたします。



<http://minds.jcqhc.or.jp/>

医療の質向上のためにユニークで先進的な取り組みをしている病院を紹介しております。

「全員主役の役割図」に基づく病院経営

医療法人社団和楽仁 芳珠記念病院

「院長は医療の質を中心に現場を見ています。事務局長は経営の質を中心に現場を見ています。ところが現場は、気付かないうちに両方やっているのです」。仲井培雄理事長は、「全員主役の役割図」の要点をこのように説明しました。

「全員主役の役割図」において職員は、トップマネジメント、ミドルマネジメント、スタッフの3層に分けられます。トップマネジメントは、CEO (Chief Executive Officer) としての理事長、CMO (Chief Medical Officer) としての院長、CA (Chief Administrator) としての事務局長が中心になります。理事長が法人とグループ各施設との一体感を創造するとともに、院長、事務局長がツートップ体制をとります。ミドルマネジメントは主に局長以下、副主任以上の役職者で構成され、その他の職員がスタッフになります。

ミドルマネジメントは、基幹会議や各組織を通じてトップマネジメントとスタッフをつなぎ、多職種協働 (TKP) を実践します。TKPは上田博前院長 (現名誉院長) が作った略称であり、「多職種」と「協働」のローマ字の頭文字「TK」に「with Patients」の「P」を加えたものです。基幹会議には、現状の姿を評価する「病院機能評価会議」、「なりたい姿」を創る「みらい創造会議」、および「医療安全リスク管理会議」があります。これらが病院運営の方向性を決定します。

TKPの現場では、医療の質と経営の質が創られます。スタッフは、この現場で事業、学習、改革を実践します。こうして「全員主役のチーム医療」と「全員主役の病院経営」が行われます。



組織図も現場に適したものが必要となります。職務と職制を表した一般的な組織図では、多職種協働の職場マネジメントを表現できません。そこで考案されたのが、職能と職場をマトリックスで表したTKP組織図です。ここでは縦に診療局、看護局、医療技術局などの職能が並び、健診センター、急性期病棟、慢性期病棟などの職場がこれに横串を刺します。

これらはすべて、仲井理事長が、北陸先端科学技術大学院大学の近藤修司客員教授に学んだ「MOT (Management of Technology)」を基礎として発展させてきました。「病院MOT改革」を実践するため、同教授をファシリテーターとした院内キャンパス「和楽仁塾」も継続して実施しています。同理事長は、「職員全員に経営の意識が醸成されてきた」と手応えを感じています。

今年度からは事業部制の導入を進めています。現場の業務がうまくいっているかを多職種で確認するため、急性期病棟グループ、地域包括ケア病棟グループ等のグループ単位で事業を推進していくものです。全員参加の病院経営がさらに進化していきます。

(企画部 林 秀行)

医療法人社団和楽仁 芳珠記念病院

石川県能美市。許可病床数320床。1998年9月認定第GB0062号 (一般B)、2004年6月認定第GB0062-02号 (一般200床以上500床未満)、08年12月認定第GB62-3号 (一般・療養200床以上500床未満)、14年5月認定第GB62-4号 (一般病院2 (200床以上500床未満) (主たる機能)、慢性期病院 (副機能))。

3月8日 医療対話推進者継続研修を開催

医療対話推進者養成セミナーは、平成16年度より認定病院患者安全推進協議会にて開催してありました「医療コンフリクト・マネジメントセミナー」を、平成25年度より内容・名称を改定したものです。昨年度より公益社団法人日本医師会との共同開催となり、現在までに約750名が修了しております。

本研修は上記の修了者を対象に「メディカルコーチング・メディカルチームコーチング」をテーマに開催されました。コーチング・チームコーチングとは「対話によって相手やチームの自己実現や目標達成を図る技術」とされ、医療現場でも活用されております。

当日は三重大学医学部附属病院の田口智博先生をお招きし、コーチングの基本的な知識およびスキルを座学とワークを通じて学びました。その後「医療の質と安全の向上への協働」というテーマで全体協議を行い、医療対話推進者養成セミナーで学んだこととのつながりや日常業務での活用方法など議論を交えて理解を深めました。受講者の皆さんが熱心にかつ楽しみながら受講されている姿が印象的でした。

今後も修了者を対象にしたさまざまな継続研修のプログラムを提供し、修了者の質の維持・向上の支援を行ってまいります。今年度修了された方も受講できますので、ふるってご参加ください。



5月28日 医療の質・安全に関するオンラインセミナー ウェビナー (Webinar)を開催

当機構では昨年度より国際医療の質学会 (ISQua) と連携して、医療の質・安全に関するオンラインセミナーを無料配信しております。今年度第1回は、5月28日(木) 18:00～19:00に、当機構の病院機能評価事業を担当している橋本迪生理事が「医療供給体制の成立経緯と病院機能評価：日本のケース」について講演いたしました。参加者からは、「医療の歴史を俯瞰できたいへん興味深かった」等の感想をいただきました。



なお、録画は国際医療の質学会 (ISQua) のウェブサイトに掲載されています。是非ご覧ください。
<http://www.isqua.org/education/japanese-webinars>

今回のWebinarは7月30日(木) 19:00～20:00です。早稲田大学大学院法務研究科教授の和田仁孝氏に「医療メディーション：有害事象発生時の患者家族との対話モデル」についてご講演いただきます。是非ご覧ください。

医療事故情報収集等事業

医療安全情報 (5月15日・6月15日情報提供分)
No.102「口頭指示の解釈間違い」
No.103「2011年から2013年に提供した医療安全情報」

医療安全情報 No.102 2015年5月

口頭指示の解釈間違い

事例ID	事例内容	発生場所	発生時期
No.102	口頭指示の解釈間違い	手術室	2015年5月

No.102 (1 ページ目)

医療安全情報 No.103 2015年4月

2011年から2013年に提供した医療安全情報

事例ID	事例内容	発生場所	発生時期
No.103	2011年から2013年に提供した医療安全情報	手術室	2011年～2013年

No.103 (1 ページ目)

詳しくはWEBで <http://www.med-safe.jp/>

Topics & Information

各イベントの申し込み方法、詳細については当機構のホームページのイベント情報をご覧ください。開催日の概ね2か月前よりお申し込みの受付を開始します。

<http://www.jcqhc.or.jp/> 日本医療機能評価機構▶ホーム▶イベント情報

7月～12月

7月	11日	診療ガイドライン作成グループ意見交換会①
	11・12日	医療対話推進者養成セミナー（基礎編）
	16日	第2回医療政策勉強会
	30日	平成27年度第2回Webinar
8月	1・2日	医療対話推進者養成セミナー（基礎編）
	15日	診療ガイドライン作成ワークショップ② （システムティックレビューコース）
	20・21日	クオリティ マネジャー養成セミナー （第1回3・4日目）
9月	10・11日	クオリティ マネジャー養成セミナー （第2回1・2日目）
	12・13日	医療対話推進者養成セミナー（基礎編）
	17日	平成27年度第3回Webinar
	30日	病院機能改善支援セミナー
10月	4～7日	ISQua国際学術総会（ドーハ）
	30・31日	クオリティ マネジャー養成セミナー （第2回3・4日目）
11月	7・8日	医療対話推進者養成セミナー（基礎編）
	17日	Minds-QIPセミナー
	21日	診療ガイドライン作成ワークショップ③ （基礎コース）
	27・28日	クオリティ マネジャー養成セミナー （第3回1・2日目）
12月	12日	診療ガイドライン作成グループ意見交換会②

詳細は順次掲載されるホームページをご覧ください。

■第2回 医療政策勉強会

- [日 時] 7月16日(木) 18:00～19:30
[会 場] 当機構9階ホール
[テーマ] 地域医療構想・地域医療計画の現状と展望
（仮題）
[演 者] 厚生労働省医政局地域医療計画課
医師確保等地域医療対策室長
佐々木 昌弘 氏
[対 象] 医療者・病院関係者
[定 員] 先着80名
（定員になり次第締め切ります）
[会 費] 1名2,000円
[申込方法] 当機構ホームページ「イベント情報」
欄よりお申し込みください。
[問合せ] 企画部(03-5217-2335)

■第2回 医療の質・安全に関する ウェビナー オンラインセミナー (Webinar)

当機構より、医療の質・安全に関する日本語セミナーをライブ配信します。

[日 時] 7月30日(木) 19:00～(約1時間)

[テーマ] 医療メディエーション：有害事象発生時の患者家族との対話モデル

[演 者] 早稲田大学大学院法務研究科教授
和田 仁孝 氏

[対 象] 医療者・病院関係者等

[形 式] 45分講義＋15分質疑応答

インターネット環境が必要です。

質問はチャット形式で受け付けます。

[参加費] 無料

[申込方法] 事前登録制

当機構ホームページ「イベント情報」
欄よりお申し込みください。

[問合せ] 企画部(03-5217-2335)

■患者安全推進ジャーナルのご案内

当機構の認定病院患者安全推進協議会が発刊している機関誌です。No.40が発行されました。

●会員病院(1,000円＋税)

認定病院患者安全推進協議会のホームページより会員サイトにログインのうえ、お申し込みください。会員病院価格となります。

●会員外病院(3,000円＋税)

当機構ホームページ>出版・ダウンロードからお申し込みください。

編集後記

7月27日に創立20周年を迎えます。これまでの皆さまのご支援、ご協力に感謝いたしますとともに、今後とも変わらぬご高配を賜りますようお願い申し上げます。

日本医療機能評価機構

NEWS LETTER

2015年7月1日発行
(奇数月1日発行)

発行：公益財団法人日本医療機能評価機構

発行責任者：井原 哲夫

〒101-0061 東京都千代田区三崎町1丁目4番17号 東洋ビル

TEL：03-5217-2320(代) / (編集：企画部) 03-5217-2335

<http://www.jcqhc.or.jp/> e-mail: order_news@jqcqh.or.jp

本誌掲載記事の無断転載を禁じます